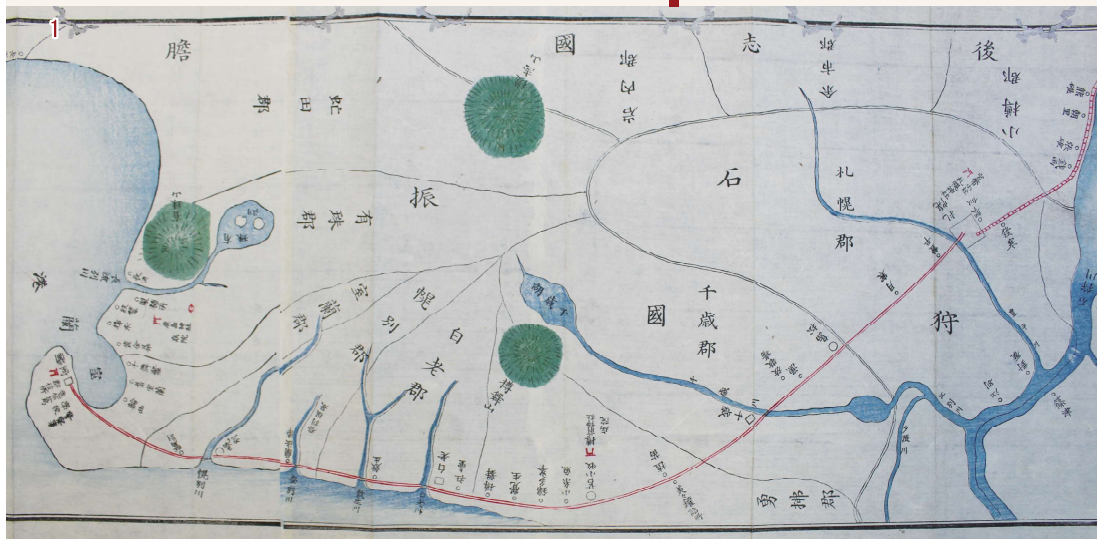


明治天皇の北海道情勢視察の跡

13 明治天皇 行幸跡

所在地

御前水：苫小牧市字美沢 132 番地 1 地先
御書行在所：苫小牧市矢代町 1 丁目 1 番
御小休所：苫小牧市字美沢 134 番地
苫小牧市字植苗 156 番地の 10
苫小牧市柳町 2 丁目 2 番
苫小牧市宮前町 1 丁目 8 番



明治 14 (1881) 年、開拓使長官の黒田清隆は開拓使十カ年計画が翌 15 (1882) 年に終了することに伴い、明治天皇に情勢視察のための北海道行幸を陳情します。

8 月 30 日、明治天皇は当時の参議であった大隈重信らとともに軍艦「扶桑」で青森から小樽に上陸し、札幌・手宮間の幌内鉄道の「義経号」で札幌に入りました。札幌では 3 泊 4 日の日程で豊平館に滞在し、開拓使庁（現北海道庁）、農学校（現北海道大学）、演舞場（現時計台）、麦酒製造所（現サッポロビール）、蒸気木挽場、煉鉄所、ぶどう園、苗穂監獄、真駒内牧牛場、屯田耕作所などを視察しました。9 月 2 日に札幌本道を車駕で南下、島松駅通の中山久蔵宅では水田育成状況を視察された後に昼食をとられ、漁を経て千歳駅通にて宿泊しました。翌 3 日に苫小牧に入り、午前 8 時 15 分ころ美沢の開拓使美々鹿肉詰製造所で小休止、次いでウトナイ湖沿岸の柄沢鶴吉宅、一本松で小休止し、矢代町（旧樽前山神社参道入口）の植田惣吉宅で昼食

をとりました。午後 2 時に植田宅を出発され、宮前町（錦多峰橋付近）の太田又兵衛宅で小休止後、3 時 38 分頃白老へ向かいました。

大正 8 (1918) 年 4 月、苫小牧村は町となり、当時の鈴木善治町長は明治天皇の行幸を後世に伝えようと、小休止および昼食をとられた 5 ヶ所に記念碑「御駐蹕之碑」を建てました。また、開拓使美々鹿肉詰製造所では、同所の井戸水が天皇に差し出されたことから、昭和 4 (1929) 年に当時の飯田誠一町長が跡地に「御前水」の記念碑を建てました。石碑の文字は北海道帝国大学（現北海道大学）初代総長の佐藤昌吉が書いたものです。

※1 参議（さんぎ）
太政官という天皇に仕える官職のひとつ

※2 木挽（こびき）
伐採された木材をさらに板などの角材に仕上げること

※3 煉鉄（れんてつ）
不要物を取り除き、粘り強い軟鉄を作ること

※4 車駕（しやが）
天皇が行幸の際に使う車のこと

※5 島松駅通（しままつきえてい）
駅舎と人馬を備え、宿泊と運送の便を図るため設置されたもの。現北広島市にある島松駅通は国の指定文化財になっている



写真の解説

- 1 明治 14 (1881) 年明治天皇行幸の経路「御通轡沿道略図（ごつれんえんどうりやくず）」（苫小牧市美術博物館蔵）
- 2 御前水の石碑（字美沢）
- 3 御書行在所（おひるあんざいしょ）の石碑（矢代町）
- 4 御小休所の石碑（字美沢）
- 5 御小休所の石碑（字植苗）
- 6 御小休所の石碑（柳町）
- 7 御小休所の石碑（宮前町）

